



橋本健一郎氏
規失業保険申請件数が前
週比変わらずの二七・六万
件を受けての米十二月利上
げ観測や中国の十月融資總
量が急減したことが改めて中國經濟の落ち込み
を浮き彫りにするなどのマイナス材料もあった
が、米アルコアが米国内のいくつかのアルミ精鍊
所を一時停止し、五〇万トンの減産を行うと発
表したこと、十月の中国自動車販売は前年比一
・八%増の二二〇万台で昨年十二月以来の伸
びだつたこと、一〇十月の中国の固定資産投資
は前年比一〇・二%増だったことを好感しLM
Eアルミ相場がUP、十月十四日時点で一・四
八一ドル(現物後場買入)と月初価格から二九
ドルUPの前半締めとなつた。

後半はトルコ軍のロシシア機撃墜による原油の
上昇、十一月の米ISM製造業景況指数は四
八・六に低下、予想の五〇・五を下回る事による
米利上げ懸念の後退などのプラス材料もあつた
が、上海株の急落、中国の工業利益が前年比
四・六%減少し、前月の〇・一%減少から悪化
したこと。ロシアのブーチン大統領がトルコ大統
領との接触を拒否するなど地政学的緊張の高
まつたことからDOWN、十一月一日現在でL
M Eアルミ相場(現物後場)は一・四三九ドルと
後半スタート価格から一四ドルDOWNしての
スタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTT-S)

一二一・七二一→一二四・〇七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台
数は前年比〇・五%減の八一万三、一一〇万台
であつた。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数
は前年比二・五%減の七万七、一五三戸であつた。
◆貿易関連指標
輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地
金が前年比九〇%減の四八t、二次合金が一
三・三%減の一、五五六t、前月比でスクラップ
が一七・九%減の一萬〇、七六五t、アルミ缶が

アルミニウムは輸出ともに減少

橋本健一郎氏
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

十一月前半は、米週間新規失業保険申請件数が前

週比変わらずの二七・六万件を受けての米十二月利上げ観測や中国の十月融資總量が急減したことが改めて中國經濟の落ち込みを浮き彫りにするなどのマイナス材料もあったが、米アルコアが米国内のいくつかのアルミ精鍊所を一時停止し、五〇万トンの減産を行うと発表したこと、十月の中国自動車販売は前年比一・八%増の二二〇万台で昨年十二月以来の伸びだつたこと、一〇十月の中国の固定資産投資は前年比一〇・二%増だったことを好感しLM Eアルミ相場がUP、十月十四日時点で一・四八一ドル(現物後場買入)と月初価格から二九ドルUPの前半締めとなつた。

輸入
輸入は新地金が前年比二六・九%減の九万九、七一〇t、二次合金が四・四%減の九万七、〇一〇t、スクランプが三八・一%減の七九七t、合金スクランプは三・五%減の四、二六八t。

前月の国内指標
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・五%減の一七万七、四七三t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・八%減の六万九、七七〇tであった。

■概況

【自動車生産】

十月の四輪車生産台数は八一万三、一二〇台で、前年同月の八一万七、〇八〇台に比べて三、九七〇台・〇・五%の減少となり、一六カ月連続で前年同月を下回つた。

十月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。
乗用車六八万九、九二九台で五、九五一台。
〇・九%の増加となり、一六カ月ぶりにプラス。
このうち普通車は四三万二、二七四台で三万四、七一九台・八・七%の増加、小型四輪車は一三万五、六〇三台で四、八〇一台・三・四%の減少、軽四輪車は一二万二、〇五二台で二三、九六七台・一六・四%の減少。

十月の国内需要は三八万〇、〇八九台で、前年同月比四・一%の減少であった。うち乗用車三一万五、一九二台で前年同月比四・〇%の減少、トラック六万三、八七五台で同五・〇%の減少、バス一、〇二二台で同八・三%の増加。
輸出は前年同月比三・八%の増加。(実績)

【自動車販売】
十一月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二三万九、八一五台で前年比〇・三%増。二カ月連続プラス。うち乗用車〇・四%減、貨物二・九%増、バス一〇・四%増。

【住宅着工数】

平成二十七年十月の住宅着工戸数は七万七、一五三戸で、前年同月比二・五%減となつた。また、季節調整済年率換算値では八六・二万戸(前月比四・三%減)となつた。

利用関係別みると、実数値では、前年同月比では持家で増、貸家、分譲住宅で減となつた。季節調整値については、前月比では分譲住宅で増、持家、貸家で減となつた。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績】

生産は前年比四・八%減の六万九、七七〇t。一三力月連続マイナス。出荷は五・八%減の六万九、六二三tと二一力月連続マイナス。うち、出荷先別では、鉄物一一・一%減、ダイカスト四・五%減、板一・四%減、押出一二・二%増、鉄鋼一二・四%減、合金地金メーカー一・七・五%増。

【アルミニウム圧延・押出品生産数】

一一・五%減と八力月連続マイナスの一七万七、四七三t。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の〇・五%減。十一月の国内販売台数が前年比〇・三%増。生産が一六力月連続マイナス、販売が二力月連続プラス。生産が一年間以上前年割れとなつたが減少幅は縮小。販売の方が微増ではあるが二力月連続プラスに。今後販売のプラスが続くか注視が必要。

生産が一年間以上前年割れとなつたが減少幅は縮小。販売の方が微増ではあるが二力月連続プラスに。今後販売のプラスが続くか注視が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比で八力月ぶりの減少となつた。分譲マンションについて前年同月に大規模物件の着工が多くあつたことが要因である。貸家の着工については六力月ぶりの減少となつたが、依然三万户を超える水準で推移しており、堅調を維持している。一方、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が大きかつた持家は前年同月比で六か月連続の増加となりなど、全体として持ち直しの傾向が続いている。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

アルミニウム圧延・押出品生産数 主力の押出建設部門の悪化を受けて減少。唯一期待の動向に注視。内販売台数の増加を受けて小幅上昇。今後内販売台数の増加を受けて減少。・アルミニウム輸入は内需の低迷や円安から減少。・アルミニウム輸出は国内玉の発生難を受けて減少。

【スクランブル需給予想】

流通在庫は、パリ同時テロやトルコ軍のロシア機撃墜などの地政学リスクを受けての価格の急落から塩漬け状態。アルミ生産の低調に伴う発生薄のトレンドは変わらないが、前記理由による玉不足か

ら需給は引き締まつてくるのではないか。

【価格・為替予想】

今月は、ECBの金融緩和時期と米国の利上げ問題に左右される。

ECBの金融緩和に関してはドラギ総裁が前回十月の会合後、「十二月の理事会で金融緩和策の度合いを見直す必要がある」と表明。その後も積極発言を繰り返し、ECBが追加緩和に踏み切るのはほぼ確実な情勢ではないか?

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が十二月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今后の動向に注目。

それらを踏まえた十二月のアルミニウム価格は、ECBが追加的金融緩和を行い、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、十一月高値の一六・五%減と八力月連続マイナスの一七万七、四七三t。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、十一月もう一段安値の一・四〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに十二月説が台頭している。

ECBは追加金融緩和に前向きなことを考へれば利下げの可能性がある。

それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが十二月の利上げを示唆し、ECBが追加金融緩和をした場合、新興国からの資金吸引上げそれに伴うドユーロ安ドル高の加速判断から大幅円高の一九円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二三円台。

メーカー一スクラップ購入価格は五円安

十二月米利上げ確率七九%

雇用統計受け米金利先物市場

四日の米金利先物市場では、十一月の米雇用統計で非農業部門就業者の伸びが堅調だつたことから、十二月利上げが確実との見方が維持された。ただ、来年の利上げペースは緩やかになると見込まれている。

短期市場が織り込んだ十二月利上げ確率は七九%。トレーダーらはまた、来年三月までに二回目の利上げがある確率は五分五分と見ていく。

ただ、来年後半に満期を迎える金利先物の相場は若干上伸し、トレーダーらが二〇一六年までの追加利上げが一回までにとどまると予想していることが示唆された。

これは連邦準備制度理事会(FRB)の前回

の利上げ局面の半分以下のペース。